

第3回旭川市合葬式施設検討会議

- 1 日時 平成27年8月26日(水) 18時30分～20時30分
- 2 場所 旭川市役所 第三庁舎保健所1階 講座室
- 3 出席委員
 - (1) 出席委員8名
雨尾委員, 石坂委員, 佐藤委員, 玉手委員, 信木委員, 三上委員, 三島委員, 宮嶋委員
 - (2) 欠席委員2名
杉野委員, 箭原委員
- 4 事務局
事務局(市民生活部)4人
今野市民生活部長, 林市民生活課長, 成田市民生活課長補佐, 鈴木
- 5 会議の公開・非公開
公開
- 6 傍聴者の数
0名
- 7 会議資料
 - ・ 次第
 - ・ 資料1 視察施設の概要について
 - ・ 資料2 東京都営墓地資料
 - ・ 資料3 横浜市営墓地資料
 - ・ 資料4 箕面市営墓地資料
 - ・ 資料5 飯盛霊園組合資料
 - ・ 資料6 大阪市営墓地資料
 - ・ 資料7 札幌市営墓地資料
 - ・ 資料8 江別市営墓地資料
 - ・ 資料9 地域まちづくり推進協議会資料
 - ・ 資料10 市営墓地及び旭川聖苑資料
 - ・ 資料11 市民アンケート資料

第3回旭川市合葬式施設検討会議の記録

1 開会

2 挨拶

3 議題

(1) 市から他都市現地視察の報告等
事務局から会議資料に基づき説明を行った。

(2) 意見交換
発言要旨のとおり。

(3) その他
発言要旨のとおり。

4 閉会

〈発言要旨〉

(座長)

それでは議題(1)市から他都市現地視察の報告等の説明をお願いします。

(事務局)

(事務局から他都市現地視察の報告等について説明。)

(座長)

議題の(2)意見交換に移っていききたいと思う。事務局からも説明があったが、我々委員も第2回の会議で札幌市と江別市の施設を視察してきたので委員の方の理解も得られたと思う。また、市民アンケートの結果や地域まちづくり推進協議会の意見なども参考に考えると整備する場所について市営墓地や広い場所では旭川聖苑。使用料については1万円や5万円以内の範囲で安い方がよいという意見もある。本日の第3回目の会議ではこれまでの会議よりも具体的な意見交換をしていただきたいと思う。検討する際のポイントとしては、市民ニーズに対応するため整備する期間として何年もかけられないという中で、できる限り早く整備してほしいという要望に私たちが応えるようなかたちで検討したいと思う。また、適正な管理なども踏まえた上でどのような施設が旭川市にとってふさわしいのかということを考えていきたいと思う。道外施設と前回会議で視察した札幌市、江別市の施設には少し差があったように感じたと思うが、道外施設のような広大で豪華で長期計画で整備している部分をそのまま参考にするのではなく、よいところやコンセプト、こういう所へみんなが入りたいと思うような施設を整備する考え方として大変参考になったと思う。前回視察の際の感想も踏まえて皆さん全員から一言ずつ御意見を伺いたいと思う。ではお願いします。

(委員)

一般の墓地には行ったことがあるが、前回の会議で初めて実際に合葬式施設を見た。今日の資料を見ても、子供の有無に関わらず、いずれ施設が必要になってくるのであれば施設全体にお金をかけるのではなく、外部はみんなが行けるような公園のような施設にして、内部は納骨堂のようなお金をかけるものではなく、例えば穴を掘っただけの場所にお骨をそのまま入れるような形式にする。視察報告にあったような白い袋に入れたお骨を1箇所にも納めるような形にする。市の財政等を考えてあまりお金をかけないように、また使用する人のあまり負担にならないようにと考えると、みんなが合同で遺骨を入れるような形にして上の方は公園的に憩えるような感じの施設にする。名前を刻むとした場合も道外施設のような立派な石に刻まなくても北海道らしく旭川らしく長い間残らないかもしれないが木で彫っただけのような形で、何十年先に墓参に来る人までもがこの施設に何々家の遺骨が入っていると見なくてもよいと思うので、墓誌なども簡単にして木や絵にしておけばあまりお金がかからないと思う。

(座長)

公園風にするということですね。

次の方お願いします。

(委員)

今日の資料を読まないで正直どれがよいのか分からないが、まず私は資料を見る前は旭川のイメージとしてシンボリックなもの、例えば大雪山が見える場所や、旭川の木であるナナカマドを配置するといった自然的な場所をイメージしていた。また、早く整備してほしいという要望は分かるが、納骨する人のパターンについて少なく絞っても3種類になると思う。とにかく安く納めたいというもの。少し豪華でそれらしいもの。それよりももう少しよいものという形になるのではないかと思う。札幌市の平岸霊園のような施設だと少し寂しいと思う。報告があった道外施設はあまりにも夢に近いような建物ばかりで、人生の最高の場所と思うくらいの施設だと思う。この事業を推進するにはまず、場所はさしあたり旭川聖苑で、将来はもう一つ永山墓地の付近を旭川市で買い整備する。立地的に東旭川まで行くと少し遠いというイメージがあるが、永山の方がみんなも出入りしやすいと思う。納骨方法については、まだ絞りきれていないが、みんな一緒に納骨する所と納骨堂みたいな所に納骨するという所が大きな違いかと思うが、歴史のあるまちの発想と北海道の140年程度の歴史という点では少し発想が違うのかなと思う。だから、300年、400年の歴史があるところは、やはり伝統というものを重んじるため立派なものになるのだと思うが、急ぐときの要素としては困ると思う。

(委員)

旭川聖苑はどこにあるのか。

(事務局)

旭山動物園は御存知か。その近く。

(委員)

旭川市のものか。

(事務局)

そう。市の火葬場。

(委員)

資料の写真にあるのが旭川聖苑か。

資料の中で一番大きい土地になるのか。

(事務局)

市として整備する土地を確保できるとした場合には、市営墓地や旭川聖苑が考えられるが、その中では旭川聖苑が一番広く確保できるということ。

(委員)

道外施設の映像を見ると考え方が分からなくなった。できれば小さくてもよいので地元で焼いた壺に一人一人納めて並んで納骨するというのがよいと思う。他人の骨と一緒に混ぜるといのはやはり嫌だと感じる。袋もやがては劣化するので旭川では陶器が盛んであり、小さな壺のようなものに入れるというのもよいと思う。

保管の場所については、しっかりとしたものであれば他委員の意見と同じく簡素

なものでよく、公園の方に少し力を入れてほしいと思う。札幌の施設は雰囲気として気持ちが悪かったので、そういう感じではなく明るい施設にして先祖と会って明るくなったというような雰囲気であればよいと思う。

墓誌については最初から言っているが、やはり旭川で何かしら足跡を残したという意味で、名前、何年没ということが書いていてほしいと思う。ただ石に彫ることでも結構お金がかかるので、真鍮板やステンレス板で作ればある程度の期間、100年、150年もつので、その方がよいという感じがする。

道外施設を視察した際は、日中だと思うが人は来ていたのか。

(事務局)

平日の日中であったが、花等も供えられており、人がいないわけではなかった。

(委員)

例えば旭川聖苑で火葬している間は、手持ち無沙汰で皆さん待っていると思う。そんなときに見て回れるようなところがあり、そこが何かおしゃれな旭川市民のお墓というようなものがあれば、雰囲気を感じながら見ることができる。見て戻って来たら、火葬が終わっていたという雰囲気になればよいと思う。だから墓誌に名前がほしいと思う。いろいろな人が来てくれるという状態であってほしい。そして、それほど過剰なお金はかけなくてもよいので、おしゃれな公園であるとよいと思う。樹林で一部囲むとして、北海道で育つ木で最も長持ちをする木がよいと思う。道外施設ではケヤキの木が結構あったように見えたが、それに代わるものとしてハルニレがあり、とても長持ちする。例えば30年前に育てたあの木が大きくなったと言えるような、思い出の場所のようなところになればよいと思う。

(座長)

ありがとうございます。次の方お願いします、

(委員)

私は、最初の会議でも言ったと思うが、私の兄の妻が横浜市の樹木葬に眠っている。それを見て私も樹木葬というものに憧れを抱いていた。

そして、自分なりにいろいろと調べていく中で、理想像としては樹木葬で土の中に布などに包まれ納骨されるという形であるが、市が最終的に結論を出して整備したところに自分が入るのであればよいと思っている。そして木の種目もいろいろな木の名前が出ているが、私が調べたところ、ねむの木というのがある。眠るイメージがあり。すばらしい葉がつくが夜になると葉が閉じる。だから昔の人は眠りの木と言い、それがねむの木に変わったらしいが、花は淡いピンクで糸状のフワツとした花が夕方に咲くことから理想としてそれを夢描いていた。しかし、会議の委員になり現実がだんだんと見えてきて今日の道外施設の映像を見たらもっと現実になった。他委員の皆さんも感じているとおり、道外のような施設を整備するにはものすごく広い場所、費用、維持費がかかるというのを実感している。そうすると旭川でどのようにすればよいかと考えた中で、前回会議で視察した江別市の施設のイメージが現実としてよいのではないかと考えている。

そしてもう一つ感じることでしては、ほかの合葬式施設の樹木葬でも遺骨を最終

的に自分で納められないということである。最後の納骨は市に委託するというイメージは自分として気分が悪く、兄も妻を納骨した際には遺骨を市に渡し、市の方が見えないところで埋葬すると言っていた。その意味で江別市は自分で納められるので、自分も江別市を利用したいと思うくらいである。自分たちが最後に納骨できる形は悪くないと感じている。北海道では積雪がありいろいろな問題が出てくるのであれば江別市のような形がよいのではないかと感じるようになった。江別市の施設は公園的要素が少なかったので、他委員が言っているとおり江別市のように最後は自分たちが納骨できる形の合葬式施設で周りは公園的な要素を取り入れる。必ず皆さん最後は火葬場に行くわけだから本人はもとより家族の方や見送る方も行く。そういったときに、最後はここに来られるのだという目安にもなるのではないかとこの感じを受けた。結論として、江別市のような方式にプラスして公園の形式を少し取り入れて明るくした施設を整備してほしい。旭川聖苑であれば、恐らく山や朝日も見えると思い、場所としてよいのではないかとこのイメージがあり、今回の道外視察の結果と前回の道内視察をした中での結論として気持ちはおさまっている。

(座長)

ありがとうございました。次の方をお願いします。

(委員)

今言えることは旭川の合葬式施設としてどういったものがよいかという結論は出るに至っていない。道外視察の報告を受けて雰囲気はよく分かったが、市民アンケート等の結果の確認ができていないこともある。小平霊園を見ると進んでいる事例だと思う。合葬式墓地と樹林墓地、樹木墓地というものを整備しているところは既にあるという前例を見せられてしまうと、旭川はどうすればよいのだろうと気持ちが揺れ動いているところがある。

今回の道外視察は雪の降らない所の実例であり、旭川では約3分の1、場合によっては一年の半分ぐらい雪と一緒に風景を見なければならぬ。特に3分の1ぐらいは完全に雪に埋もれてしまう状況で公園のような墓地というのは、旭川に適しているのかも一回考え直さなければいけないと思う。全国のどこにでもあるようなものを真似するだけではよいものになるとは限らないので何が旭川らしさかは分からないが旭川に適した方法は何かということが一番のテーマになる気がする。

道外施設の報告の中で石に名前を彫っているものがあつたが、感想として大変な作業だと思う。名前を追加するとき技術的にどのようにやっているのかと思った。

(委員)

今は大型の機械で、シルク印刷のようにフィルムでできる。それをなぞることで比較的簡単にできる。

(委員)

技術的なことはよく分からないが、墓誌にシミが付いている等クレームがあつた場合に作り直すということがあり得るだろうと感じた。

(委員)

たぶん天然石のため劣化すると思う。

(委員)

旭川らしさということについては、旭川駅の内装のプレートがあると思う、あれは木だと思うが、寄付された方の名前が彫ってある。例えばあのような形のもので旭川らしさが伝わっていくのかなという気もしている。

それから、市民アンケートの結果は精査できていないが、先ほど他委員が言ったとおり三つぐらいのパターンがあってもよいという気がする。まず、安くてとにかく今すぐ使用したい人とか。それだけでは寂しいということで、自分の名前を刻んでもらいたい人とか。骨壺に入れてもらいたい人もいると思う。それらを全部一緒にすることは難しいと思うので、グレードはあってよいのではないかと思う。

(座長)

メニューがあってもよいということですね。

(委員)

お金の面など様々なことが最終的には関係してくるかもしれないが、グレードはあってもよいという気はする。だから、一つの形にすることをゴールにしないで考えていかなければいけないと前回会議での見学と今回の道外視察の実例を見て思った。

(委員)

私はまず、先ほど他委員も言っていた墓地という感じより公園のような明るい感じがする施設がよいと思う。

前回会議では札幌市と江別市を見てきたが、私が少し特別な感じを持ったのは江別市の施設である。墓石だけは大きくてすごくお金をかけているという感じがした。でも、私は石やモニュメントというようなものにはそんなにお金をかける必要はないと思っている。それと、2年をめでに整備するというのではなく、いくつかパターンがあってもよいと思う。樹木葬は北海道ではふさわしくないということが他委員の意見を聞いて分かったが、もしかしたら北海道にふさわしいものとして、ただの石で整備するというのではなくて、ほかに何かできるものがあるのではないかと思う。2年程度で今回の施設の整備が終わるのではなくて、今後の未知数の部分も含めてスペースを結構広く確保しておき、将来的に使えるような形がよいと思う。とりあえず2年で整備するという計画を考えるのではなく、広く考えてほしいと感じた。

他都市ではNPO法人のエンディングセンターが運営している施設がある。樹木葬などいろいろなタイプの施設があるが、それを見て旭川にもふさわしいものがあるのではないかと考えている。

今日だけで意見をまとめるのではなく、まだ意見を述べる場があると思う。今回の資料も読んでいないので、ゆっくり読んでまたこういったことを話し合ってもらいたいという感想である。

(座長)

はい。次の方をお願いします。

(委員)

皆さんだいたい同じことを考えられていると思う。私も一言で希望を言うように言われれば明るさである。平岸霊園は少し寂しい感じがしたが、江別市は明るいように感じた。小平市は噂に聞いていたが、よいと思った。あとできるだけという意味での要望としては、他委員も言っていた市民に親しまれるようなちょっとした公園のようなものがあるとよいと思う。ネーミングも合葬式墓地という感じではなく、横浜市のメモリアルグリーンという名前は素敵で、さすが横浜だと思う。旭川市でも市民からネーミングを募集し関心を集めて素敵な名前を付けてもらおうとよいと思う。樹木葬も見るととても素敵だと思う。旭川に樹木葬は合わないかと言うとドイツでもやっているのだから合わないことはないかと思う。積雪の間は入らなければよく、できないこともないとは思っている。

でも、あれもこれも望むのは贅沢かもしれないのであまり言わないことにする。明るい施設で市民に入りたいと思われるような施設の整備をよろしく願いしたい。
(委員)

先ほど言い忘れたが。釧路町で樹木葬を予定しているという記事が昨日の新聞に出ていた。釧路でやれるのであれば、できないことはないのかと思う。希望者が結構出ているようだ。

(座長)

アンケート結果には樹木葬がよいという意見もあった。

皆さんから意見をそれぞれ一言ずつ頂戴した。(※番号は委員の発言の順) ①委員は公園風がよいのではないかと。②委員はグレードを3段階にすればよいのではないかと。場所はさしあたって旭川聖苑にして将来的には永山墓地の隣地を買って一つ整備してはどうか。③委員はお骨が一緒になるのは嫌だ。ステンレスや真鍮の墓誌が必要なのではないかと。旭川聖苑内にあれば皆さんが散歩もできるし、ハルニレの木がよいのではないかと。④委員は旭川の現実を考えると江別みたいなものがよく、特に自分で納骨できるもので、周りは公園風がよいのではないかと。ねむの木でもよいのではないかと意見があったが、ねむの木とは遊び合おうと書く。⑤委員は、北海道は雪で埋もれてしまう。今回の資料を参考に多角的に考えなければならない。一つの形にしなくても、多角的、もちろんお金の問題もあるが、旭川らしさが一つのテーマであり、グレード、メニュー、そういった検討が必要ではないかと。⑥委員は、墓地よりも公園の方が明るいと思うが、江別のようなモニュメントの石造りにお金をかけない方がよく、パターンが必要であり樹木葬もよいが北海道には向かないのではないかと。⑦委員は、明るい施設で入りたいと思われるような付加価値を付けていくのがよいのではないかと。皆さんから意見を頂戴したが、本日の資料等を見ながら、引き続き具体的な意見交換を続けたいと思う。御発言は私の方で考えをまとめていきたいと思う。どうぞお願いします。

(委員)

座長の御意見は。

(座長)

本日の資料を見て、樹木葬の中にも例えば小平市は、樹林と樹木の違いがある。

1本の木の下に埋蔵するというのが樹木で、数本ある木の下に埋蔵するというのが樹林かと思う。木の根元の芝生が目についたが、北海道における樹木について他委員もそれぞれ考えていると思うが、私も北海道という地域で芝生はどうするのか考えなければいけないと思う。横浜では芝生を使い、遺骨は骨壺に入れて埋蔵してある。

(委員)

横浜の芝生墓地はどのようなものか。

(事務局)

芝生墓地は、プレートタイプのお墓の下に埋蔵するもの。

一般墓地なので合葬式施設ではない。

(委員)

芝生について言えば、私の会社で12箇所の芝生の維持管理と運営とやっているが、道外視察の報告を見たときに、これは維持管理が大変だと思った。刈りこみの機械が必要になるが、機械にはタイヤがあるため墓の際まで機械が使用できない。そういった部分は全て手で行うことになり、相当な維持費がかかる。

(委員)

旭川では半年、雪の中になるので芝生の管理も大変だと思う。

(委員)

北海道の芝生は西洋芝という北国向けの芝を使っている。芝生としては大丈夫だが、メンテナンスが大変である。

そういったことを考えると、皆さんの声を反映して旭川らしさを集約して多角的にメニューを作っていかなければいけないと思う。明るさはとても大事だと思う。大雪山はよいところだと思うので、景観として必要だと思う。

(委員)

樹木の根本の芝生に埋蔵するとしたら埋蔵の受付後は、遺骨がどこに埋蔵されているのか分からないということもあると思う。

(委員)

樹木葬について質問だが、横浜市施設は木の生えているところに納骨することになるのか。

(事務局)

そう。

それぞれ木の根本の芝生に遺骨を骨壺に入れて埋蔵している。

(委員)

見た目は立派だとしても、50年、100年、200年のサイクルを考えなければいけないと思うが、そうすると木の根が伸びてくる。木の根はすごいもので、皆さんも木の根の影響で家の塀がひっくり返るところを見たことがあると思う。だから木の下に埋蔵するのであればどのようにするのかと疑問に思う。私も神居神社にある木の根が出ているのを見るが、おんこの根も10年経つと塀を壊すこともある。モミジもそう。だから樹木葬というのはきれいだが、50年、100年サイクルの

メンテナンスを考えたときには大変だと思う。

それから石に彫ったものが何年くらいもつのかという話題があったが、あれもかなりもつと思うが、昔の石は非常に柔くて自分の祖父の墓は100年も経っていないが、掘ってある文字が全部見えない。御影石だともつのかと思ったりする。

(委員)

箕面市も御影石か

(事務局)

そう。御影石。

(委員)

私は将来1,000人,2,000人の名前を彫ることを考えたときにはスペースが相当いるのかなと思う。あってもよいとは思いますが。

(委員)

普通は双方の契約になると思う。20年とか永代供養も30年だと思う。30年から33年が普通限度だと思う。そういう契約をすることになり100年先までは保証しないというのが普通になると思う。

(委員)

30年で取り替えるということも考えられるのか。

(委員)

そういうこともあってよいと思う。

(委員)

そういう条件であれば道外施設のような周りにある墓誌でも全部納まると思うが2代3代前の人の名前がなくなると困ると思うので、札幌市のような方式がよいのかと思う。

(委員)

墓誌を造ることに合わせて景観を造っていくという発想もあると思う。ただそれが大きな石なのか、岩なのかは分からないが。

(委員)

沖縄の施設の墓誌は字を掘っているのか。

(委員)

沖縄は黒御影で、全部掘ったものを建てていたと思う。

(委員)

箕面市と大阪市の墓誌に刻む料金は5万円か。

(事務局)

箕面市については5万円に消費税がかかる。

飯盛霊園は整然と並ぶ黒御影の石に名前を彫るのに10万円かかる。墓誌にシミができたという理由で御影石を変えたこともあるとのことであった。

(委員)

墓誌に名前を入れる料金は利用者が負担するのか。

(事務局)

そう。刻まない人もいる。希望する人は費用を支払うことになる。

(委員)

飯盛霊園は組合霊園ということであれば、市営というより民営になるのか。

(事務局)

公営になる。民営ではないが霊園事業と火葬場事業に特化する目的の組合になる。

(委員)

各市からお金は入れられているのか。

(事務局)

飯盛霊園は4市で作られているので、負担金は各市が払っているようだ。合葬式施設の費用は、全部で3億円、モニュメントそのものは1億3千万円程度、設計は1,000万円程度とのこと。現在利用者が結構いるようで、使用料が2億6千万円程度あり黒字に近づきつつあるとのこと。ただ要望に応えるためには苦勞があり慰霊祭は4月10日に毎年行っているが、年々参拝者が増えてきているとのこと。

(委員)

4月10日の意味は。

(事務局)

オープンした日。参拝者は年々増えていて、車の交通整理から大変だと言っていた。職員総出で対応しており本当に大変だとのこと。

(委員)

私は、お葬式に関して多くの人が多額の費用を使っており、お金がないという人でも立派な葬式をしているというイメージを持っている。

そのような理由からも使用料については、A、B、Cというランクのような希望が出てくると思う。市の合葬式施設の目的をここできちっとして出してほしいのは、どういうイメージで造るかということである。まず、柱として旭川市民がみんな一緒に入ることが大事なのか、それぞれの希望に合ったお墓に準じた施設がほしいのか、どれが市で造るのにふさわしいかという方向をまず他委員に伺った方がよいのかと思う。市民アンケートの希望では上下が激しいように見える。

(委員)

旭川はまだ、個人でお墓を持っている方がいて代々継いでいく人がいると思うが、継ぐ人もいないようなことが多くなり、旭川自体の人口が増えてこなければ、東京都のような施設を造ったとしても使用料は入らないと思う。

東京や大阪のように人口がいて、ある程度生活水準が高ければ、道外のような使用料や管理費がかかっても使用する人数はいると思うが、旭川のレベルでは他委員が言っていたように、A、B、Cとランク付けすることはあっても骨壺を大きくしないで小さくするとか、いろいろな方法があると思う。旭川で合葬式施設を使用したいという人はどのくらいいるのか。

(事務局)

今回実施した市民アンケートでお墓または納骨堂を持っていないと回答した方で合葬式施設の使用を考えている方が約25パーセント、本市に合葬式施設があれば

利用したいという方が約42パーセントであった。

(委員)

東京都など道外の施設を映像で見るとよい施設だと感じるが、北海道として考えたときには少し違うとは思う。

(委員)

年間の埋蔵数はどの程度になるのだろうか。

(委員)

札幌市では年間600体と言っていた。

(委員)

旭川はその半分以下になると思う。そうなると、市である程度の施設を建ててある程度の使用者がいたとしても使用料などが安ければ、すぐ黒字になるような状態にはならないと思う。

(委員)

年間埋蔵数を60体として1体5万円だと仮定して300万円程度か、それ以下になると思う。

(委員)

それで運営費を出そうとすれば無理な話だと思う。

(委員)

60体はどういう計算か。

(委員)

札幌では600体であるが、札幌では地方から来た人もいると思うので人口から割り出すとその程度かと思った。

今のところ旭川では自分のお墓を持っている人も多いと思う。

(委員)

最近はお墓を持っていても終わりにしたいという人が結構多いと思う。

(委員)

先ほど他委員が言っていたが、昔はお葬式でも香典をたくさんもらえて葬儀費用を支払ってもお金が残ったと聞いたが、これからは家族葬が多いと思う。本当にギリギリの状態で家族がお金を持ち出してやるということが多いと思う。

(事務局)

合葬式施設の使用希望者がどれくらい増えるのかということはなかなか読めない部分があると思う。ただそのような市民のニーズというのは確実にあり早急に整備してほしいという意見も切実なものがある。私が視察してきた大阪市の瓜破霊園では年間700体の埋蔵を目安にしているそうだが、300体未満と言っていた。意外に利用されていないという現実があり、担当者は電車の中吊り広告に載せたり施設の周囲に旗を立てたりして周知する努力をしているとのことであった。

旭川でも施設の整備をした場合に使用者数はもしかすると多くないことも考えられるが、市として市民ニーズ等がある中で施設整備をすることにより埋蔵方法の選択肢を提供することは必要だと思っている。何体埋蔵できる施設にするのかという

ことは今後の意見交換になると思うが。

(委員)

早く整備してほしいという人たちは後継者がいないからという意味なのだろう。

(委員)

その人たちはある程度使用料が高くても使用したいという人ではないだろうか。

(委員)

親族がいなくなりお墓を見てくれる人もなく、お金もないから合葬式施設があれば入りたいと考える人も多いと思う。また、お金はあるが跡継ぎがない人や子供は娘しかいないが嫁に行ったので市の合葬式施設があれば使用料が高くても入りたいという人もいると思う。

(委員)

まだまだそういう人やそれに近い人がいると思う。

(委員)

墓があっても、夫と同じ墓に入りたくないという人も今いると思う。

(委員)

市民アンケートについて、必要だと思う人の理由として子供や孫などに負担をかけたくないと思うからという理由と将来的に引き継がれていくことに不安があるからという理由の方が多い。それから本市に合葬式施設があれば利用したいと思いませんかという質問には、利用したいが約42パーセント、分からないが約41パーセント。利用したくないは約11パーセントである。分からないという人はアンケートの時に分からないということだと思うので、結果として利用したいと考える人もいるかもしれない。そう考えると4年後、5年後に整備するよりは、まず1個目を2年でも3年でも早く、ある程度のものを整備すれば市民に喜ばれるのではないかと思う。財政面からもできる範囲のところ旭川らしいものを少し出していければよいと思う。

(委員)

1基、2基、3基と整備することも考えられるということか。

(委員)

まず1基目を整備するということになると思う。

(委員)

少子化が進行していく中で、そういったニーズは増えていくとは思う。

(委員)

12年後は、高齢者も39パーセントぐらいになると思う。

(委員)

見学してきた施設の埋蔵数や人口と旭川の人口比率を比べて5年、10年サイクルで何体程度の使用が見込まれるかというシミュレーションはあるのだろうか。

(事務局)

亡くなられる方の推計の試算については会議の資料として出している。

(委員)

アンケート結果にある合葬式施設を利用したいと回答した40数パーセントの人の中でどの程度の人数が利用するのかが分かればと思った

(事務局)

60体、100体という単純な数字で計算すると利用者は多くなると思うが、アンケートで施設を利用すると回答のあった40数パーセントの方たちがみんな本当に利用するかというと現実にはそうならないと思う。市として、市民ニーズに対応していくということは必要であり、納骨方法について旭川市として選択肢を広げるということだと思う。1回目の会議で説明した民間施設との役割分担についても必要であり、従来のように墓を引き継いでいくことも必要であるが、一方では合葬式施設のように新しいニーズが出てきたということに対する選択肢を市として公に用意することを目的とすることが一つあると思う。その上でいろいろ意見をいただき旭川らしさというものを参考にさせていただきたいと思う。

(委員)

私たち世代から見ると子どもに対して過保護だと思う。

(委員)

私もそうだが娘が2人しかいないので過保護で甘やかし過ぎだと言われる。

(委員)

私たちの子供ぐらいまでは、私たちがお墓参りをするのだから思う。

(委員)

子供が生まれる数が1.1ぐらいだと思うが、その1人が男か女か分からない。私も女の子2人が関西にいるが、それでも毎年お墓参りに来ようとしている。孫が女の子であり、孫の子供に無理は言えないとってくる。

(委員)

お墓を建てて子供たちを連れていきお墓参りについて勉強させると思うのだが。

(委員)

来たくても来られない人もいると思う。

(委員)

距離もあると思うが徹底して教育しなければならないと思う。

(委員)

お墓参りに行ってもお花が上がってないお墓があると寂しそうで気の毒だなと思う。子供や孫が遠くにいる方なのかもしれないが、きっと行きたいと心痛めているのではないかと思う。働かなければいけない中で来られないでいるのかと思うと、かわいそうだと思う。そうした場合、合同墓はいつでもお花が絶えないのではないかと思う。少しでも安心できて明るくてよい所だと思ってもらえる施設にしてほしい。

(委員)

我々の世代が結婚して、男の子が産まれたときには、位牌持ちができて安心したという会話をしたものである。

今は、男の子ができたときには過保護で、旭川に土地があり家を建ててあげても

コミュニケーションがなく同居もしない。それで伝統が守れないのではないかと思う。

(委員)

先はどうなるか分からない。子どもが先に逝くかもしれない。

(委員)

先ほども言ったが私は子供や孫に迷惑をかけられないという発想が分からない。

(委員)

素晴らしい教育をしてほしいものである。

(委員)

孫には自分の先祖を守ってもらうために財産は残すが、渡せばいなくなるから渡すように準備だけしておくことが必要だ。

(委員)

これは世界的に悲惨な状態になると思う。

(委員)

一つ質問するが、合葬式施設をとりあえず1次で整備したあとは、2次、3次というふうに考えるのか。それとも1次整備すれば全部終わりになるのか。

(事務局)

そのようなことも考えられるとは思う。市の窓口にもたくさんの方の市民の方が相談に来ており、市長が公約に入れたという背景にもそのような声が相当あった中で、早急に施設の整備について検討しなければならないということで始めた。規模の想定についても行うが、それがどのようになっていくのかという検証をしながら行うこともあると思う。もしかすると東京、大阪のようなお墓に対するしがらみは北海道の方が薄いかもしれず、施設が増えれば一気にお墓がなくなるということも考えられると思う。そういったことも含めて、今までの意見交換から見えてきたことや旭川市としてどのような方向に進もうとしているのかという情報をもう少し出していきながら皆さんに意見交換していただきたいと思う。

(委員)

1回施設を整備したら、それで終わりではなく2次、3次という部分も考えているということか。

(事務局)

終わりで済めばそれでよいのかもしれないが、今日の意見交換でもあったように、いろいろなニーズがある中でどのように対応していくかということだと思う。そして本当に急いでいる方がいることは事実であり、そういった要素を踏まえたときにどういう対応をするかということだと思う。

(委員)

資料に確保可能面積が示されているが、あまりにも少なすぎると思うが。

(事務局)

資料の市営墓地での数字については、お墓の使用区画はずっと満杯の状態になっているというものであり、例えば2号墓地について言えば、過去に管理人が住んで

いた家屋を整理すると、この程度の面積は確保ができるということ。

旭川聖苑で100～500㎡という数字は、聖苑の敷地の中でどこでも確保できるということではなく、既存の施設や庭を外して、おおざっぱに3箇所ほど確保できるのではないかという机上の話であり必ずしも一致してない部分がある。

旭川聖苑の5枚の写真があるが、右上の写真では大雪山が見える。この場所を使用するとした場合、使える面積というのはもっと絞られて具体的になると思う。事業計画において施設の配置も考えなければならないと思うので、その辺ももう少し細かく検討していくことになると思う。

(委員)

今までの意見に出ている明るい公園のような雰囲気施設の施設を一度に整備しなくても、2期、3期で整備するとなれば土地だけは少し広めに確保した方がよいと思う。

(委員)

土地の価格は、それほど高くないだろうから将来を見越して買収して確保しておくということなども計画の中に入れていくとよいと思う。

(委員)

神居墓地で言えば20㎡とあるが単純に計算すると4m×5m程度だと思う。これぐらいしか確保できないということだと思う。

土地の広さよりも問題になるのは多分駐車場だと思う。ただ停められればよいというものでもなく駐車場から歩いて1時間かかるのでは困るので、そのような場所が確保できる所はおのずと限られてくるのかと思う。

(委員)

私は昔から神居墓地を利用している。昔の車のない時代から皆あれだけの距離を歩いて行っていた。不便でありよい場所ではないと思う。

(委員)

常磐公園でもよいと思う。

(委員)

旭川聖苑だけである程度の場所を確保できたとして、次に例えばもう1基整備するときには、ほかの場所として山も見える大雪霊園のような方角の場所に確保するという考えはあるのか。

(事務局)

先ほど申し上げたようにそういったことも含めて、この会議でいろいろなことが見えてきたということもあり、その次も続いていくのか、あるいは続いていくとしたら場所はどちらにいいのかについては、今全部決めきれものではないだろうということもある。そういったところも今回分かったこととしてどういう整理の仕方をするか、今回はこれを考えていただきたいと思う。意見として、そのあとについてはこんなことが想定されるから考えておいた方がよいとか、そこはいろいろな示し方があるのかと思う。今決まっているということは全くないため。

これまでの意見交換の中では、お金を使いすぎると実現するのが遠くなるという

認識のお話しをされていると思う。私が窓口に来られている市民の方の反応を見ながら心配していたのは、施設を整備するのであれば何年かかっても、多少お金がかかってもよいから新しい土地の理想の場所に整備しようという意見交換になったときには、まさに時間やお金がかかることで、いつ整備できるか分からないものになるのではないかとということである。そういった中で、この会議では急ぎながらもどのようなメニューを考えるのかという意見交換の場面に来ており、まずは1基目をどのように整備するのか、その先にすごく長い目を見たときに理想の場所というものを探していくのかという方向がこの場面で意見交換されていくのではないと思うが、それをどのように実現するのかまでは見えないままだと思う。そのために事務局の資料には、今既に市が管理している旭川聖苑や市営墓地の情報を御覧いただいているところである。

(委員)

座長、この施設は人間だけが対象となるのか。最近ではペットと一緒にのお墓へ入りたいという希望もあるようだ。

(座長)

入りたいという方がいるのであれば、考えられるのかもしれないが。

それでは皆さんそろそろ終了の時間になります。とりあえず今考えるべきことは今造る施設により市民の不安に伝えるということであり、この検討会議はその責任があると思っている。今造るものを今考える、その現実を直視することで今後の会議の終わりに向けて皆さんに御検討いただいていることをまとめていきたいと思う。

そうした中で皆さんからいろいろな意見が出ており、明るいイメージという意見や公園のような施設という意見、その中で冬はどのようにするのかという意見などがある。さまざまな意見を取りまとめることが難しい部分もあると思うのでバラバラな意見をそのまま出してしまうという考え方と、検討会議で意見交換した結果として今造る施設は旭川らしさがある市民の不安に伝えるための施設という意見のような形にしていくのかどちらかだと思う。そうした中で次回の会議で意見交換するに当たりバラバラの意見という形ではなく意見集の形を目指すということによろしいか。

(委員)

～異議なし～

(座長)

それでは意見をまとめるという方向で進めていきたい。まとめていくに当たり、私の方でこれまで意見交換していただいた皆さんの御意見を中心に意見集のたたき台のようなものをまとめながらそれを事務局に整理していただき次の会議に活かしていくという進行でよろしいか。

(委員)

～異議なし～

(座長)

作成の際に事務局から皆様に御質問等に伺うこともあるかもしれませんがよろ

しく願います。

(委員)

旭川市では今、合葬式施設を初めて検討していると思うが民間では既に整備しているところもある。民間では公営の施設よりかなりグレードが高く使用料は10万円前後する。市が整備するとした場合には、グレードの高い施設となれば使用料が高くなるので、私はそのようなクラスのものではなく、ある程度の御負担をいただく真ん中ぐらいのスケールのものということを考えて方がよいと思う。

(座長)

スタンダードのものとして造っていこうという考えですね。

(委員)

ある程度の段階も考えられるため、そういったものも必要だと思う

(座長)

それは、これから次を考えていく際に視野に入れていくということで検討していくのだと思う。

(委員)

市民アンケートの結果では5万円以下というのが圧倒的に多いので、その金額で使用したいという人たちが現在強く施設を希望しているということで間違いないと思う。

(座長)

議題の(3)その他について、事務局から何かございますか。

(事務局)

長時間にわたり活発な意見交換をしていただきありがとうございます。座長からもあったが、事務局の作業として、いろいろと座長からお話しいただきながら作成したものを次回お示ししたいと思う。意見集という話があったので、そこに向けて進みやすいように作業を進めていきたいと思うので、事務局としても必要なことがあれば委員の方にお伺いすることもあると思うのでよろしく願います。

(座長)

以上をもちまして本日の議題を終了する。委員の皆さま長時間にわたり熱心な意見交換をしていただき誠にありがとうございました。事務局にお返す。